

岩井の大火（昭和9年6月6日）から75年 町民の安心・安全・財産を守るため、消防訓練実施



昭和9年6月6日、焼失民家149戸（地区戸数の約7割）・被災者7、200人の大火災となった岩井の大火。もうあれから75年の時が経過しました。

二度とあのような惨事を繰り返さぬようにと、今年も6月6日（土）岩美町消防団、岩美消防署合同による消防訓練が実施されました。

今年の訓練は、岩井温泉街で車両の衝突事故と建物火災による逃げ遅れ者の救出救護訓練を実施しました。

岩井分団と岩美消防署並びに湖山消防署のはしご車の出動により、迅速に消防団と消防署が連携し、被害を最小限にする活動ができました。

また、訓練前には岩井保育園児による防火パレードも行われ、火災予防をよびかけました。



岩井保育園児によるパレード



日赤奉仕団の方によるハイゼックス配布もしました



国の重要無形民俗文化財 因幡の菖蒲綱引き開催



6月7日（日）今年も大羽尾の子ども達をはじめ、岩美北小学校の児童や地区外の子ども達約30名が参加し、大勢の観衆が見守る中、因幡の菖蒲綱引き・相撲が行われ、活気あふれるものとなりました。

この綱を編むために大羽尾の菖蒲綱引き保存会、子ども会の保護者、子ども達が午前8時に大羽尾神社に集合しました。因幡の菖蒲綱引きは、子ども達の健やかな健康を願って古くからこの地域に伝わる伝統文化。ただ、最近では少子化の影響で地区の子ども達が少なくなり、伝統行事継続の危機と大羽尾菖蒲の綱引き保存会のメンバーは頭を悩ませています。

国の重要無形民俗文化財である因幡の菖蒲綱引きを町民一丸となって、これからも守っていきましょう。



大羽尾の菖蒲綱引き保存会と大羽尾子ども会のみなさん